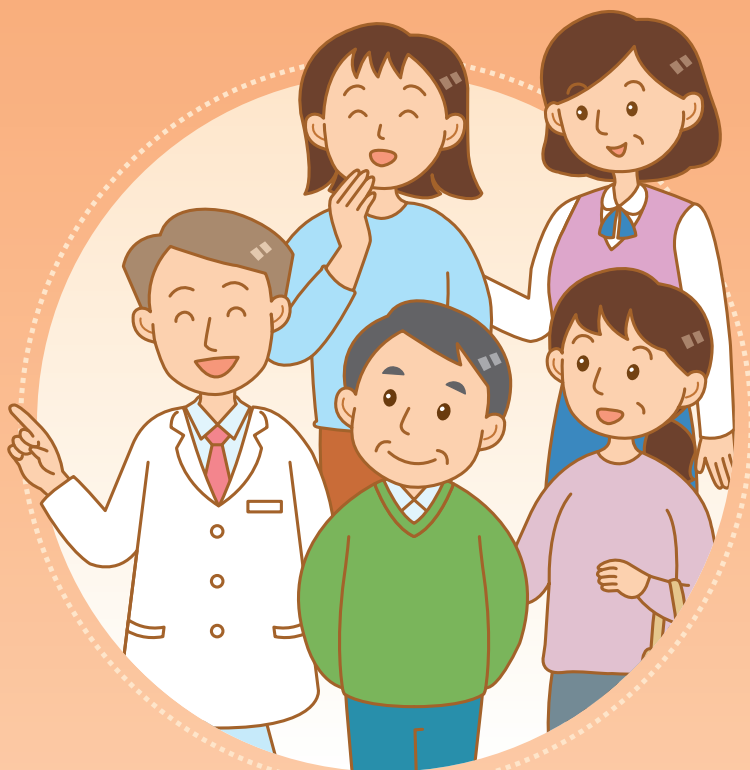


大腸がんにおける

カボックス

CAPOX療法



[監 修]

地方独立行政法人 神奈川県立病院機構

神奈川県立がんセンター

消化器外科 部長

塩澤 学 先生

目次

はじめに	2
大腸がんとは	
大腸の構造	3
大腸がんについて/大腸がんの進行度	4
大腸がんの治療	
大腸がんの治療方法の種類	5
大腸がんのステージと治療方法	6
手術後の合併症	7
手術後の日常生活の注意点	8
化学療法の効果と役割	12
化学療法の副作用	13
カボックス ゼロックス CAPOX(XELOX)療法	
オキサリプラチンとカペシタビンのはたらき/投与方法	14
CAPOX(XELOX)療法について	15
CAPOX(XELOX)療法の治療スケジュール	16
治療を始めるにあたって	
治療前の確認事項	17
治療を受ける前に	18
点滴治療を受けているときの注意	19
主な副作用とその対処方法	
副作用の発現しやすい時期	20
末梢神経障害	21
アレルギー反応	22
手足症候群	23
骨髄抑制	24
消化器症状	26
その他の副作用	29
バシズマブとの併用療法でみられる副作用	29
治療日記とメモの記載	30

はじめに

「オキサリプラチン」は注射用抗がん剤のひとつで、経口薬の「カペシタビン」と組み合わせた治療方法を「CAPOX（カボックス）療法」あるいは「XELOX（ゼロックス）療法」といいます。

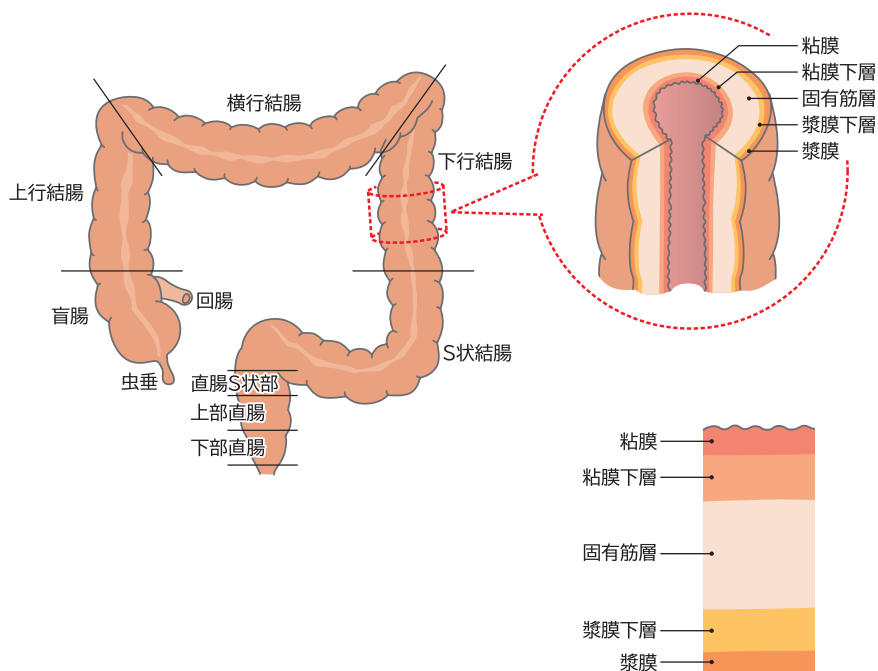
この冊子は、大腸がんの治療方法であるCAPOX（XELOX）療法を始められる患者さんに、大腸がんとその治療、そしてオキサリプラチンとカペシタビンについて理解を深めていただき、前向きに治療に取り組んでいただくために作成しました。不安に思うことや、少しでも気になることがあれば、主治医や医療スタッフ（薬剤師、看護師など）におたずねください。

大腸がんとは

大腸の構造

大腸は、小腸に続く長さ1.5～2mの臓器で、食べ物が消化・吸収された後の残り(便)から水分を吸収して肛門まで運ぶ役目をしています。大腸は大きく「結腸」と「直腸」に分けられ、さらに結腸は「盲腸」、「上行結腸」、「横行結腸」、「下行結腸」、「S状結腸」に、直腸は「直腸S状部」、「上部直腸」、「下部直腸」に分けられます。

大腸の壁はいくつかの層になっており、内側から「粘膜」、「粘膜下層」、「固有筋層^{しょうまく}」、「漿膜下層」、「漿膜」に分けられます。



大腸がんについて

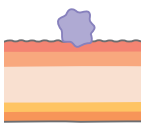
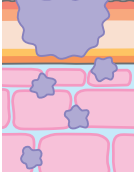
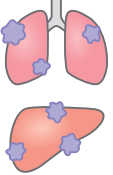
大腸がんは一番内側の粘膜から発生する悪性の腫瘍で、次第に大きくなりながら大腸の壁を壊して増殖していきます。同時にがん細胞はリンパ管を伝ってリンパ節に転移したり、血液の流れによって肝臓や肺などの臓器に転移したり、大腸の壁を突き破っておなかの中に散らばったりします。

大腸がんの進行度

大腸がんの進行度はステージ(病期)であらわされ、進行度が低い順にステージ0、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの5段階に分類されます。

ステージはがんの大きさではなく、

- 大腸の壁に入り込んだ深さ(深達度)
- 周囲組織への広がり(浸潤)の程度
- リンパ節への転移や肝臓・肺などの臓器への転移の有無(遠隔転移)によって決まり、ステージによって治療方法が決まります。

ステージ0	ステージⅠ	ステージⅡ	ステージⅢ	ステージⅣ
				
がんが大腸の粘膜にとどまる	がんが大腸の壁(固有筋層)にとどまる	がんが大腸の壁(固有筋層)の外まで浸潤している	リンパ節転移がある	遠隔転移がある

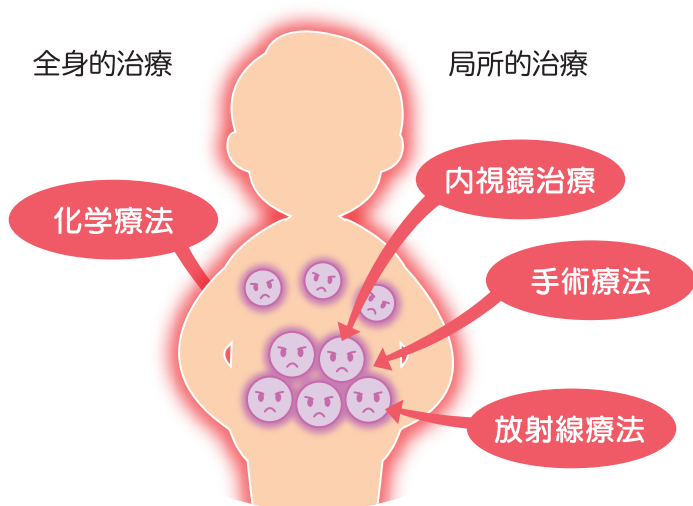
出典：大腸癌取扱い規約 第9版を参照し作成

大腸がんの治療

大腸がんの治療方法の種類

大腸がんの治療は、体の一部分を治療する「局所的治療」と、全身を治療する「全身的治疗」に分けられます。

局所的治療には「内視鏡治療」、「手術療法」、「放射線療法」、全身的治疗には抗がん剤を用いる「化学療法」があります。



大腸がんのステージと治療方法

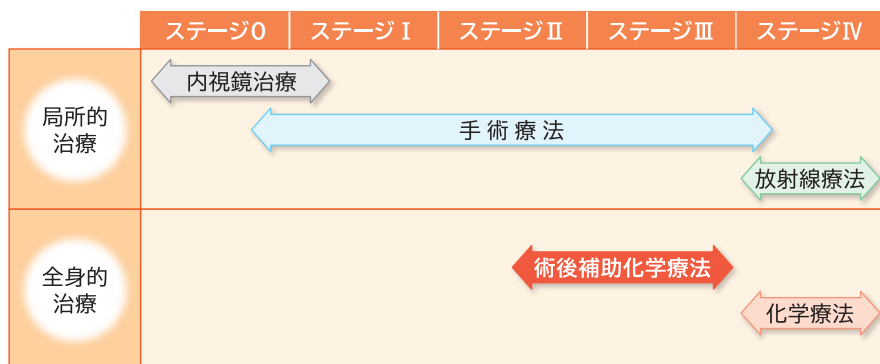
大腸がんのステージごとに治療方針は異なります。

がんが粘膜内にとどまっている場合や、粘膜下層への浸潤が浅い場合(ステージ0～Ⅰ)は内視鏡治療を行います。

内視鏡治療で取りきれない程がんが深く浸潤していたり、リンパ節に転移が疑われたりする場合(ステージⅠ～Ⅲ)は手術治療で全てのがんの切除を目指します。

術後補助化学療法は、再発を抑えるために手術後に行う化学療法で、ステージⅢ、およびステージⅡのうち再発の危険性が高いと思われる患者さんを対象に行います。

がんを手術で取りきれない場合(ステージⅣ)は、化学療法や放射線療法を行います。



出典：大腸癌治療ガイドライン(医師用 2019年版を参照し作成)

手術後の合併症

大腸がんに限らず手術を受けた後には、合併症が起こることがあります。合併症には手術と直接関係して起こるものと、手術とは関係なく起こるものがあります。

手術と直接関係して起こる合併症

- 縫合不全…つなぎ合わせた腸管がうまくつながらず、縫い目から腸の内容物が周囲に漏れ、炎症が起こること。
- 創感染……手術の傷に細菌が感染して炎症が起こること。

対策

急な発熱や寒気、腹痛や体のだるさなどの症状がある場合は、すぐに医療スタッフに伝えましょう。

-
- 腸閉塞(イレウス)…手術の影響で腸がうまく働かず、便の通りが悪くなっておなかが張ってくること。

対策

食事や水分をとらないで様子を見ていると痛みが治まる場合がありますが、痛みや吐き気が続く場合には、主治医の診察を受けましょう。

手術とは関係なく起こる合併症

- 肺炎
- 心臓病
- 肝機能障害
- など

少しでも気になることがあれば、医療スタッフに連絡してください。

手術後の日常生活の注意点

「食事について、気をつけることはありますか？」

退院後は、特に食事の制限はありませんが、手術後間もないときは腸の運動が十分に回復していないことがあります。食物繊維の多いものや、消化しにくいものは腸閉塞の原因になることがありますので、手術後3ヵ月くらいは控えたほうがよいでしょう。

日常生活の
アドバイス

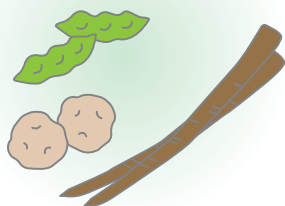
- 食事は無理をせず食べられるものにして、ゆっくりと時間をかけて、良く噛んで食べましょう。



手術後3ヵ月くらいは控えたほうがよい食品

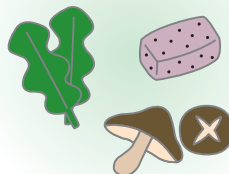
食物繊維の多いもの

・いも類、豆類、ごぼうなど



消化しにくいもの

・わかめ、きのこ、こんにゃくなど



「排便に変化はありますか？」

通常の結腸の切除では、排便にほとんど変化は起こりませんが、結腸を広い範囲切除した場合は、水分を吸収する能力が低下し、下痢になることがあります。ですが多くの場合は、治療後1ヵ月から2ヵ月でやや軟らかい便の状態になり、日常生活に支障を来すことはまれです。水分を多めにとり、消化のよいものを、よくかんで、ゆっくり食べましょう。

直腸を切除した場合は、排便の回数が増えたり、一回の便量が減ったり、残便感を感じたりすることがあります。



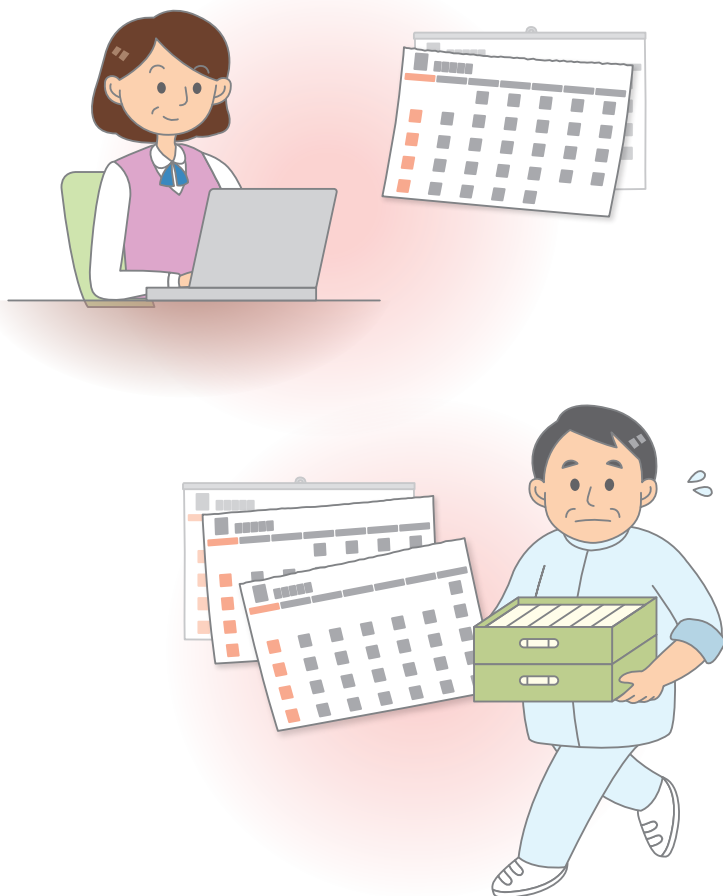
消化の良いもの

- ・おかゆ、うどん、豆腐、
野菜のやわらか煮など



「手術後、どのくらいで社会復帰できますか？」

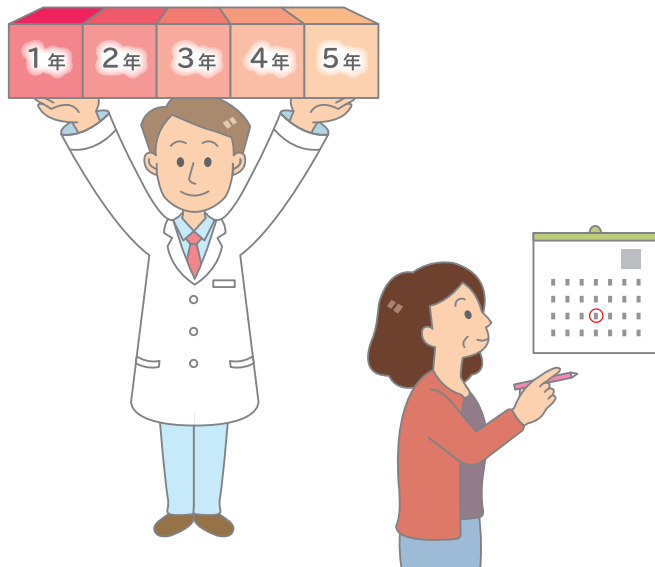
復帰できる時期は一人一人の患者さんの状況（年齢や体力、社会的状況、仕事内容、手術の方法など）によって異なります。一つの目安としては、デスクワークであれば手術後1ヵ月程度、腹筋をよく使う運動や仕事であれば手術後2～3ヵ月くらいを目処に社会復帰を考えるのがよいでしょう。



「手術後、どのくらいの期間通院が必要ですか？」

もし、大腸がんが再発したときでも、早い時期に発見できれば、手術や化学療法により完治する可能性が高くなります。手術後も主治医の指示のもとで、定期的に通院し、検査を受けることがとても大切です。

大腸がんの再発はほとんどの場合、手術後5年以内に起こるため、原則として手術後5年間は定期検診が必要です。一般的には、最初の3年間は3～6ヵ月に1度、3年目以降は、約半年に1度の間隔で通院します。5年経過した後も、別の臓器や大腸の別の部位に、新たにがんが発生する可能性があるため、検診などの定期的な診察や検査が必要になります。



化学療法の効果と役割

抗がん剤を使ってがん細胞を攻撃する治療方法を化学療法といいます。化学療法は、投与された抗がん剤が血液に乗って全身に運ばれるので、局所的治療とは異なり、広い範囲のがん細胞の増殖を抑えたり、消滅せたりするはたらきがあります。

大腸がんに対して化学療法を行う目的には、次の二つがあります。

①手術後の再発を抑える(術後補助化学療法)

手術で目に見える全てのがんを切除できたとしても、目にみえない小さながんが残っていることがあり、そこからがんが再発することがあります。術後補助化学療法は、残っているかもしれないがんを攻撃して、できる限り再発を抑えることを目的としています。

②手術で取りきれないがんを治療する

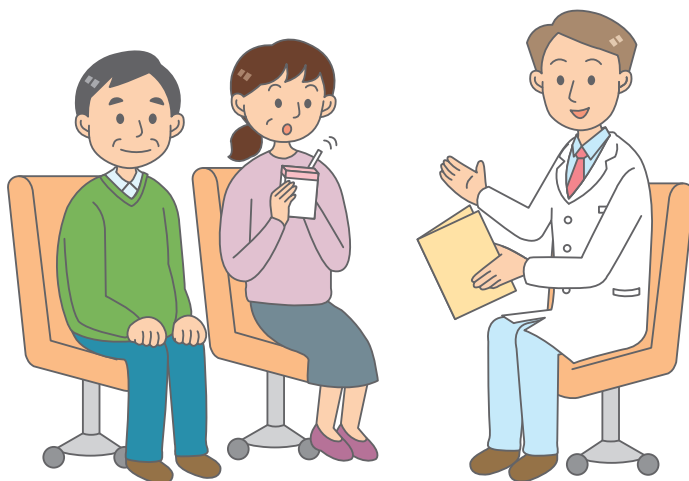
手術で全てのがんを取りきることが難しい場合は、化学療法が有効な治療方法です。がんを小さくしたり、がんが大きくなるスピードを抑えたりして、症状を和らげ、患者さんの生活の質をよりよく維持する役割があります。

化学療法の副作用

抗がん剤はがん細胞のみならず正常な細胞にも働いてしまうため、治療期間中は副作用があらわれる可能性があります。副作用の症状は抗がん剤の種類によって異なります。また、副作用には個人差がありますので同じ抗がん剤でも全ての人に同じ副作用があらわれるとは限りません。

化学療法を効果的に実施するためには、副作用をいかに最小限に抑えて、治療を継続するかが重要です。そのためには、患者さんやそのご家族があらかじめ副作用について知っておくことが大切です。

最近では副作用を予防したり、その症状を軽くする治療(支持療法)の進歩により、より安全で効果的な化学療法がおこなわれるようになってきています。

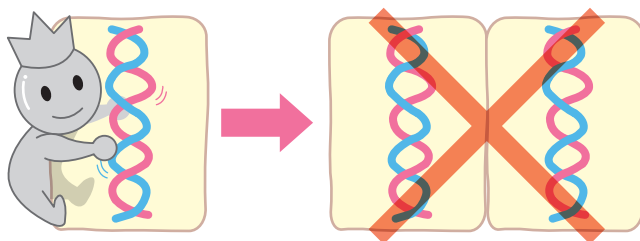


CAPOX(XELOX)療法

オキサリプラチンとカペシタビンのはたらき

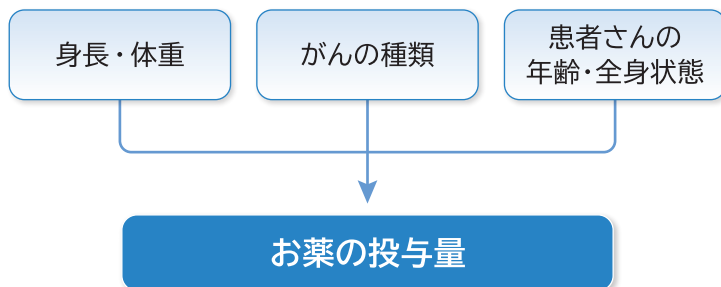
オキサリプラチンは、白金（プラチナ）製剤と呼ばれる抗がん剤に分類されます。この種類のお薬は、がん細胞のDNAに結合してその複製を妨げることでがん細胞の増殖を抑え、がんを縮小・消滅させることができます。

カペシタビンは、代謝拮抗剤（フッ化ピリミジン系）と呼ばれる抗がん剤に分類されます。このお薬は、がん細胞に多く存在する酵素で代謝されることにより、がん細胞内で効率よく働いて増殖を抑えます。



●投与方法

オキサリプラチンとカペシタビンは、患者さんの身長・体重に基づいて、患者さんの年齢や体調、および、それまでの副作用の程度などを考慮して投与量が決められ、オキサリプラチンは点滴で、カペシタビンは経口で投与されます。



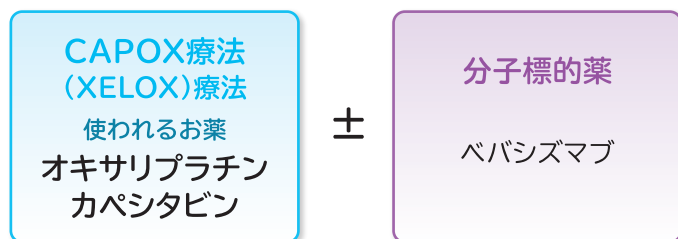
CAPOX (XELOX) 療法について

オキサリプラチンは通常、単独では使用されず、他のお薬と組み合わせて治療に使用されます。使用するお薬の組み合わせによって治療方法の名前がつけられています。

CAPOX (XELOX) 療法は、
注射薬のオキサリプラチンと、
経口薬のカペシタビン

を組み合わせた治療方法で、大腸がんにも有効な治療方法の一つです。

さらに、CAPOX (XELOX) 療法にベバシズマブという分子標的薬を併用して使用することもあります。分子標的薬も、がん細胞の増殖や転移に関わる体の反応を抑えるお薬です。

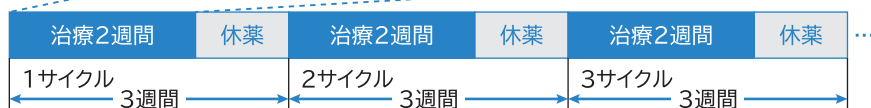
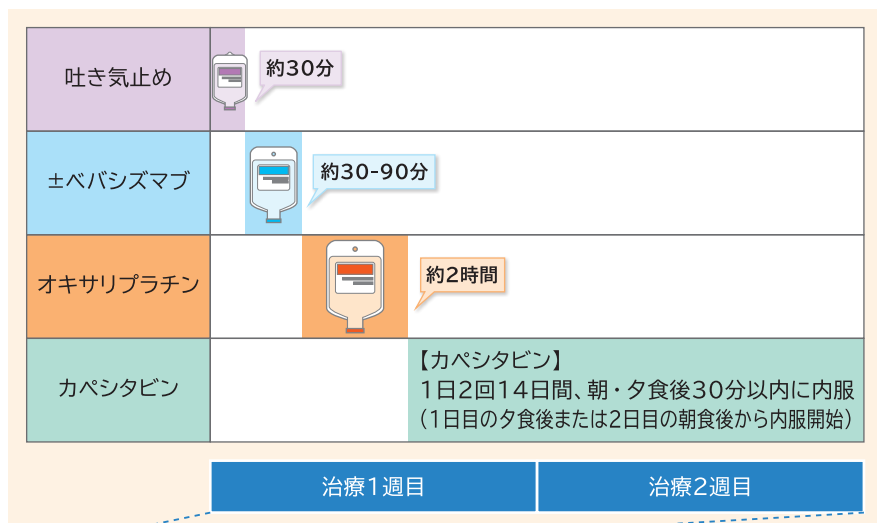


CAPOX (XELOX) 療法の治療スケジュール

CAPOX(XELOX)療法による治療は、3週間を1サイクルとし、1日目に吐き気止めのお薬を点滴します。次にペバシズマブを投与する場合は、ペバシズマブを約30-90分かけて点滴します。その後、オキサリプラチンを約2時間かけて点滴します。また、1日目の夕食後または2日目の朝食後からカペシタビンを1日2回14日間内服し、その後は1週間休薬します。

通常、この3週間のサイクルを繰り返しながら治療を進めます。

術後補助化学療法では、ペバシズマブは併用されず、6ヵ月間(8サイクル)行うのが一般的ですが、3ヵ月間(4サイクル)行う場合もあります。



ここに示した投与スケジュールは参考例です。他のお薬が投与される場合や、患者さんの状態によって、スケジュールが変更になる場合があります。

治療を始めるにあたって

治療前の確認事項

次のいずれかの項目にあてはまる方はCAPOX(XELOX)療法を受ける前に、必ず担当の医師にお伝えください。

- ☐ 以前に使用したお薬で発疹やかゆみなどのアレルギー症状が出たことがある。
- ☐ 手足の感覚が鈍っている、または、しびれなどのために、手足や口をスムーズに動かすことができない。
- ☐ 腎臓が悪い。
- ☐ 妊娠している、または妊娠している可能性がある。
- ☐ 現在お使いになっているお薬がある、または服用を中止して7日以内のお薬がある。
- ☐ 寒気がする、熱っぽく感じる。
- ☐ 貧血、めまい、息切れがする。
- ☐ 出血しやすい。
- ☐ 水痘(みずぼうそう)にかかっている。
- ☐ 肝臓が悪い。
- ☐ 胃潰瘍などがある。
- ☐ 心臓が悪い。
- ☐ 授乳している。

ベバシズマブを併用する場合の確認事項(上記以外)

- ☐ ベバシズマブを使用して発疹やかゆみなどのアレルギー症状がでたことがある。
- ☐ 以前に肺出血(鮮血を吐く)があった。
- ☐ 大きな手術後で、傷が治っていない。
- ☐ 脳にがんの転移がある。
- ☐ 出血が止まりにくい体質である。
- ☐ 抗凝固剤を使用している。
- ☐ 以前に脳梗塞、心筋梗塞などになったことがある。
- ☐ 糖尿病である。
- ☐ 高血圧である。

治療を受ける前に

- 治療に際しては、規則正しい食事や、十分な睡眠をとり、体調を良い状態に保つように心がけましょう。
- 不安や苦痛に思っていることを、ご家族や医師・看護師等まわりの人に遠慮なく話しましょう。誰かに聞いてもらうことで気持ちが楽になります。また、病院には心のケアの専門家もいますので、相談してみることも一つの方法です。
- 他の医療機関を受診される際は、CAPOX(XELOX)療法による治療を受けていることをお伝えください。

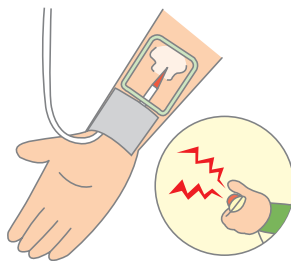


点滴治療を受けているときの注意

点滴薬が血管の外に漏れると、腫れたり、赤くなったり、痛くなってきたりすることがあります。**点滴中**はできるだけ**安静**にしてください。



万一、**お薬が漏れたとき**には、ただちに医師や看護師にお伝え下さい。速やかに適切な処置を行います。



点滴の**注射針を刺したところ**が、硬くなったり、痛くなったり、腫れてきたり、熱い感じがしたり、かゆみなどの違和感があらわれた場合には、ただちに医師や看護師にお伝えください。



点滴の途中で吐き気を感じたり、**気分が悪くなった場合**には、早めに医師や看護師に申し出てください。



主な副作用とその対処方法

化学療法の施行中には何らかの副作用があらわれることがあります。そのため、いつ、どのような副作用が起こるかを予測して、その対策をたてておくことは副作用の予防や症状を和らげるのに役立ちます。また、人によってその症状や程度は様々ですが、治療を延期したり、お薬の量を減らしたり、中止しなければならない場合もあります。

副作用の発現しやすい時期



末梢神経障害

抗がん剤によって末梢神経が傷つけられると、手足や口のまわりのしびれなどの感覚異常があらわれることがあります。この症状は、抗がん剤の投与直後、または少し時間がたってから起こります。2～3日でおさまることが多いですが、治療を繰り返していくことで症状が持続するようになることもあります。また、冷たいものに触ると症状が出やすくなり、悪化することもあります。

多くの場合、化学療法終了後、時間とともに消失あるいは軽減します。

このような症状のときは、医療スタッフに連絡を

- のどがしめつけられるような感じがする、息苦しい。
- 飲み物や食べ物を飲み込みにくい。
- 手足のしびれや痛みのために文字を書きにくい、ボタンをかけにくい、歩きにくい。



日常生活のアドバイス

- 冷たい飲み物・食べ物はとらないようにしましょう。
- 冷気にあたらないようにしましょう。
- 冷たいものに直接触れないように手袋を着用しましょう。
- 手や顔を洗うときはぬるま湯を使いましょう。
- 気温が低いときには、手袋・マフラーなどを着用し、マスクをしましょう。
- 素足で歩かないで靴下やスリッパをはきましょう。



アレルギー反応

抗がん剤によって、じんま疹、腹痛や嘔吐、息苦しさなどの症状があらわれることがあります。症状が重い場合には、血圧の低下や意識の混濁などのショック症状を起こすこともあります。

これらの症状はアレルギー反応として、薬剤の投与中、投与後数時間あるいは数日してからあらわれることがあります。

また、はじめて薬剤の投与を受けた時に起こる場合と治療を何サイクルか繰り返した後に起こる場合もあります。

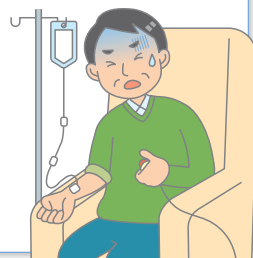
このような症状のときは、医療スタッフに連絡を

- 皮膚が赤い、じんま疹が出ている。
- 腹痛がある、吐き気がする。
- 声がかすれる、くしゃみが出る、のどがかゆい、息苦しい。
- 顔色が青白い、意識がはっきりしない。



日常生活のアドバイス

- 症状を感じたら、すぐに医療スタッフに知らせましょう。
- 症状が出て慌てず、深呼吸をして気持ちを落ち着かせましょう。
- 症状が落ち着いた後も安静が必要な場合や、アレルギーを抑えるお薬を服用する場合があります、医師の指示を守りましょう。



手足症候群

抗がん剤によって手足の皮膚細胞が傷つけられることで起こる副作用を手足症候群といいます。

力がかかるところ(手の指先やかかとなど)に症状が出やすく、初期にはチクチクまたはピリピリするような感覚や痛みを感じ、進行すると皮膚が赤く腫れたり、水ぶくれがでえたりします。足の症状がひどくなると、痛みで歩くことも困難になる場合もあります。

治療を始めてから2サイクル目(6週間)くらいまでに起きることが多く、休薬することで症状は軽くなります。

このような症状のときは、医療スタッフに連絡を

- 手や足が赤く腫れたり、やけどのような痛みを感じる。
- 皮膚や爪が黒く変色する。



日常生活の アドバイス

- 保湿クリームなどをぬって、皮膚の乾燥を防ぎましょう。
- 長時間の歩行や立ち続けることは避けましょう。



骨髄抑制

抗がん剤によって血液をつくる骨髄のはたらきが抑えられると、白血球、赤血球、血小板などが減少して、さまざまな症状が出ることがあります。

骨髄抑制の副作用は、自分で気付くにくいので、定期的に血液検査を行います。指示された検査は必ず受けるようにしてください。

白血球減少

白血球は、体を病原菌から守り、感染症を防ぐ働きがあります。白血球が少なくなると、体の抵抗力が弱まり、かぜや肺炎などにかかりやすくなります。

このような症状のときは、医療スタッフに連絡を

- 37.5℃以上の発熱がある。
- 寒気や悪寒がする。
- 咳が出たり、喉に痛みを感じる。
- 体がだるく、ふしぶしが痛む。
- 尿のにごり、排尿時の痛み、残尿感がある。



日常生活のアドバイス

- 食事の前や排せつの前後、外出後は丁寧に手洗い、うがいをしましょう。
- シャワー、入浴などで体を清潔に保ちましょう。



赤血球減少 (貧血)

赤血球が少なくなると、貧血の症状が出る場合があります。

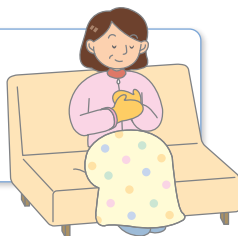
このような症状のときは、医療スタッフに連絡を

- 少し動いただけで動悸、息切れがする。
- めまい、立ちくらみがする。
- 手足が冷える。



日常生活の アドバイス

- 無理をせず、こまめに休むようにしましょう。
- 手足が冷たい場合は保温するよう心がけましょう。



血小板減少 (出血)

血小板が少なくなると出血しやすくなります。

このような症状のときは、医療スタッフに連絡を

- 少しのことで出血したりあざ(内出血)ができる。

日常生活の アドバイス

- けがをしないように注意しましょう。
- やわらかい歯ブラシを使用して、歯ぐきを傷つけないようにしましょう。



消化器症状

吐き気、 おう吐

吐き気やおう吐は個人差が大きい副作用で、治療を始めた当日～数日間に起きやすい副作用です。症状を和らげるお薬がありますので、我慢しないで医療スタッフに相談してください。

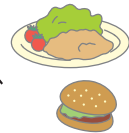
このような症状のときは、医療スタッフに連絡を

- 食事や水をとることができない。
- 1日3回以上吐いてしまう。



日常生活の アドバイス

- 食事は無理をせず食べられるものにして、ゆっくりと時間をかけて、良く噛んで食べましょう。
- 脂っこいものや消化の悪いものはなるべく避け、消化の良いものを食べましょう。
- お茶やレモン水でうがいをしたりすると気分が楽になります。



下痢

下痢が長く続くと、脱水状態やミネラル不足になることがあり、日常生活に支障をきたすことがあります。下痢の症状は強くあらわれることもありますので、注意が必要です。

このような症状のときは、医療スタッフに連絡を

- 1日の排便回数が3回以上増えた。
- さしこむような腹痛がある。
- 便が泥状か完全に水のようにになっている。

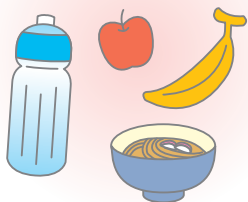


日常生活の アドバイス

- 脱水状態にならないよう、こまめに水分補給をしましょう。

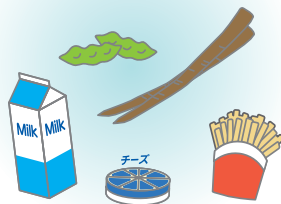
下痢の時におすすめの食品

- ・スポーツドリンク
- ・りんご、バナナ
- ・おかゆ、麺類



下痢の時に避けたい食品

- ・アルコール
- ・高繊維、高脂質の食べ物
- ・乳製品



口内炎

抗がん剤による口内粘膜の障害や、口内の細菌感染により口内炎が現れることがあります。

このような症状のときは、医療スタッフに連絡を

- 口の中が痛い、ひりひりする。
- 痛みにより、食事や会話がしにくい。
- 熱いもの、冷たいものがしみる。



日常生活のアドバイス

- やわらかい歯ブラシを使ってこまめに歯みがきをしましょう。
- タバコは口内炎を悪化させるので禁煙しましょう。
- うがいをして口の中をきれいに保ちましょう。
(起床時や食事前など1日7～8回が目安です)
- 主治医と相談して、歯科医で口腔ケアを受けることも可能です。



その他の副作用

疲労感

原因ははっきりしていませんが、抗がん剤治療後2～3日頃から全身のだるさや疲れやすさを感じることがあります。

日常生活の
アドバイス

- 疲れたと感じたときは、無理せず体を休めましょう。
(P.24「骨髄抑制」の項目にも留意してください。)

脱毛

髪の毛や、からだの毛が抜けることがあります。個人差はありますが、治療終了後3～6ヵ月程度で再び生えてきます。

ベバシズマブとの併用療法でみられる副作用

しょうか かんせんこう

消化管穿孔 …………… 胃や腸に穴があく

そうしょうち ゆ ち えん

創傷治癒遅延 …………… 傷が治りにくい

粘膜からの出血 …… 鼻血、歯ぐきの出血

出血 …………… 吐血、下血

けっせん そく せんしょう

血栓塞栓症 …………… 動脈や静脈の中に血のかたまりができる

高血圧

かぎやくせいこう はくしつ のうしょうしょうこうぐん

可逆性後白質脳症症候群 …… けいれん、意識障害、視力障害などが起こる

たん白尿

治療日記とメモの記載

がんの治療は、ひとりひとりの患者さんの状態に合わせて行われます。そのため、患者さんの毎日の体調や気になることなどを記録し、医師や医療スタッフと相談しながら治療を進めていくことが大切です。

【記入例】

治療開始 からの日数	1週目			
	1日目	2日目	3日目	4日目
月/日 (曜日)	12/3 (水)	12/4 (木)	12/5 (金)	12/6 (土)
服 薬	朝 6錠 夕 6錠	朝 6錠 夕 6錠	朝 6錠 夕 6錠	朝 6錠 夕 6錠
体温(℃)	37.1℃	37.5℃	37.1℃	37.2℃
食事量	×	△	○	○
	◎通常 ○やや少ない △少ない ×			
便通(回)	0 回	1 回	1 回	0 回
吐き気・おう吐	○	○	○	
口内炎				
下 痢			○	
手・足・口のしびれ・痛み		○	○	○
手足の皮膚の発赤・腫れ・痛み		○	○	
鼻血・歯ぐきからの出血				

カペシタビンを服用した時に○をつけ、服用した錠数を記載します。

症状がある場合は○をつけます。

上記以外にいつもと違う症状がある場合に記入してください。

メモ 医師に伝えたいこと、聞きたいこと、気になること

12/3 あまり眠れなかった

12/4 熱っぽい

医師等に伝えたいことや気になることを書きとめておきましょう。

1 サイクル

治療開始 からの日数	1週目								
	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目
月／日 (曜日)	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()
服 薬	錠 (タ錠)	錠 朝錠	錠 朝錠	錠 朝錠	錠 朝錠	錠 朝錠	錠 朝錠	錠 朝錠	錠 朝錠
体温(℃)	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
食事量									
	◎通常 ○やや少ない △少ない ×食べられない							◎通常	
便通(回)	回	回	回	回	回	回	回	回	回
吐き気・おう吐									
口内炎									
下 痢									
手・足・口のしびれ・痛み									
手足の皮膚の発赤・腫れ・痛み									
鼻血・歯ぐきからの出血									

×モ 医師に伝えたいこと、聞きたいこと、気になること

2週目					3週目							
10日目	11日目	12日目	13日目	14日目	15日目	16日目	17日目	18日目	19日目	20日目	21日目	
／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	
朝錠 夕錠	朝錠 夕錠	朝錠 夕錠	朝錠 夕錠	朝錠 夕錠	朝錠 (夕錠)	休 薬						
℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	

○やや少ない △少ない ×食べられない

◎通常 ○やや少ない △少ない ×食べられない

[illegible]

✕モ 医師に伝えたいこと、聞きたいこと、気になること

2サイクル

治療開始 からの日数	1週目								
	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目
月／日 (曜日)	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()
服 薬	錠 (タ錠)	錠 朝錠	錠 朝錠	錠 朝錠	錠 朝錠	錠 朝錠	錠 朝錠	錠 朝錠	錠 朝錠
体温(℃)	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
食事量									
	◎通常 ○やや少ない △少ない ×食べられない							◎通常	
便通(回)	回	回	回	回	回	回	回	回	回
吐き気・おう吐									
口内炎									
下 痢									
手・足・口のしびれ・痛み									
手足の皮膚の発赤・腫れ・痛み									
鼻血・歯ぐきからの出血									

×モ 医師に伝えたいこと、聞きたいこと、気になること

2週目					3週目							
10日目	11日目	12日目	13日目	14日目	15日目	16日目	17日目	18日目	19日目	20日目	21日目	
／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	
朝錠 夕錠	朝錠 夕錠	朝錠 夕錠	朝錠 夕錠	朝錠 夕錠	朝錠 (夕錠)	休 薬						
℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	

○やや少ない △少ない ×食べられない

◎通常 ○やや少ない △少ない ×食べられない

[illegible]

✕モ 医師に伝えたいこと、聞きたいこと、気になること

3サイクル

治療開始 からの日数	1週目								
	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目
月／日 (曜日)	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()
服 薬	錠 (タ錠)	錠 朝錠 タ錠	錠 朝錠 タ錠	錠 朝錠 タ錠	錠 朝錠 タ錠	錠 朝錠 タ錠	錠 朝錠 タ錠	錠 朝錠 タ錠	錠 朝錠 タ錠
体温(℃)	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
食事量									
	◎通常 ○やや少ない △少ない ×食べられない							◎通常	
便通(回)	回	回	回	回	回	回	回	回	回
吐き気・おう吐									
口内炎									
下 痢									
手・足・口のしびれ・痛み									
手足の皮膚の発赤・腫れ・痛み									
鼻血・歯ぐきからの出血									

×

モ

医師に伝えたいこと、聞きたいこと、気になること

4サイクル

治療開始 からの日数	1週目								
	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目
月／日 (曜日)	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()
服 薬	錠 (タ錠)	錠 朝錠 タ錠	錠 朝錠 タ錠	錠 朝錠 タ錠	錠 朝錠 タ錠	錠 朝錠 タ錠	錠 朝錠 タ錠	錠 朝錠 タ錠	錠 朝錠 タ錠
体温(℃)	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
食事量									
	◎通常 ○やや少ない △少ない ×食べられない							◎通常	
便通(回)	回	回	回	回	回	回	回	回	回
吐き気・おう吐									
口内炎									
下 痢									
手・足・口のしびれ・痛み									
手足の皮膚の発赤・腫れ・痛み									
鼻血・歯ぐきからの出血									

×モ 医師に伝えたいこと、聞きたいこと、気になること

2週目					3週目							
10日目	11日目	12日目	13日目	14日目	15日目	16日目	17日目	18日目	19日目	20日目	21日目	
／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	
朝錠 夕錠	朝錠 夕錠	朝錠 夕錠	朝錠 夕錠	朝錠 夕錠	朝錠 (夕錠)	休 薬						
℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	

○やや少ない △少ない ×食べられない

◎通常 ○やや少ない △少ない ×食べられない

[illegible]

✕モ 医師に伝えたいこと、聞きたいこと、気になること

5サイクル

治療開始 からの日数	1週目								
	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目
月／日 (曜日)	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()
服 薬	錠 (タ錠)	錠 朝錠 タ錠	錠 朝錠 タ錠	錠 朝錠 タ錠	錠 朝錠 タ錠	錠 朝錠 タ錠	錠 朝錠 タ錠	錠 朝錠 タ錠	錠 朝錠 タ錠
体温(℃)	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
食事量									
	◎通常 ○やや少ない △少ない ×食べられない							◎通常	
便通(回)	回	回	回	回	回	回	回	回	回
吐き気・おう吐									
口内炎									
下 痢									
手・足・口のしびれ・痛み									
手足の皮膚の発赤・腫れ・痛み									
鼻血・歯ぐきからの出血									

×

モ

医師に伝えたいこと、聞きたいこと、気になること

2週目					3週目							
10日目	11日目	12日目	13日目	14日目	15日目	16日目	17日目	18日目	19日目	20日目	21日目	
／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	
朝錠 夕錠	朝錠 夕錠	朝錠 夕錠	朝錠 夕錠	朝錠 夕錠	朝錠 (夕錠)	休 薬						
℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	

○やや少ない △少ない ×食べられない

◎通常 ○やや少ない △少ない ×食べられない

[illegible]

✕モ 医師に伝えたいこと、聞きたいこと、気になること

6サイクル

治療開始 からの日数	1週目								
	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目
月／日 (曜日)	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()
服 薬	錠 (タ錠)	錠 朝錠	錠 朝錠	錠 朝錠	錠 朝錠	錠 朝錠	錠 朝錠	錠 朝錠	錠 朝錠
体温(℃)	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
食事量									
	◎通常 ○やや少ない △少ない ×食べられない							◎通常	
便通(回)	回	回	回	回	回	回	回	回	回
吐き気・おう吐									
口内炎									
下 痢									
手・足・口のしびれ・痛み									
手足の皮膚の発赤・腫れ・痛み									
鼻血・歯ぐきからの出血									

×

モ

医師に伝えたいこと、聞きたいこと、気になること

2週目					3週目							
10日目	11日目	12日目	13日目	14日目	15日目	16日目	17日目	18日目	19日目	20日目	21日目	
／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	
朝錠 夕錠	朝錠 夕錠	朝錠 夕錠	朝錠 夕錠	朝錠 夕錠	朝錠 (夕錠)	休 薬						
℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	

○やや少ない △少ない ×食べられない

◎通常 ○やや少ない △少ない ×食べられない

[illegible]

✕モ 医師に伝えたいこと、聞きたいこと、気になること

7サイクル

治療開始 からの日数	1週目								
	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目
月／日 (曜日)	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()
服 薬	錠 (タ錠)	錠 朝錠	錠 朝錠	錠 朝錠	錠 朝錠	錠 朝錠	錠 朝錠	錠 朝錠	錠 朝錠
体温(℃)	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
食事量									
	◎通常 ○やや少ない △少ない ×食べられない							◎通常	
便通(回)	回	回	回	回	回	回	回	回	回
吐き気・おう吐									
口内炎									
下 痢									
手・足・口のしびれ・痛み									
手足の皮膚の発赤・腫れ・痛み									
鼻血・歯ぐきからの出血									

×モ 医師に伝えたいこと、聞きたいこと、気になること

2週目					3週目							
10日目	11日目	12日目	13日目	14日目	15日目	16日目	17日目	18日目	19日目	20日目	21日目	
／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	
朝錠 夕錠	朝錠 夕錠	朝錠 夕錠	朝錠 夕錠	朝錠 夕錠	朝錠 (夕錠)	休 薬						
℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	

○やや少ない △少ない ×食べられない

◎通常 ○やや少ない △少ない ×食べられない

[illegible]

✕モ 医師に伝えたいこと、聞きたいこと、気になること

8サイクル

治療開始 からの日数	1週目								
	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目
月／日 (曜日)	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()
服 薬	朝錠 (タ錠)	朝錠 タ錠	朝錠 タ錠	朝錠 タ錠	朝錠 タ錠	朝錠 タ錠	朝錠 タ錠	朝錠 タ錠	朝錠 タ錠
体温(℃)	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
食事量									
	◎通常 ○やや少ない △少ない ×食べられない							◎通常	
便通(回)	回	回	回	回	回	回	回	回	回
吐き気・おう吐									
口内炎									
下 痢									
手・足・口のしびれ・痛み									
手足の皮膚の発赤・腫れ・痛み									
鼻血・歯ぐきからの出血									

×モ 医師に伝えたいこと、聞きたいこと、気になること

2週目					3週目							
10日目	11日目	12日目	13日目	14日目	15日目	16日目	17日目	18日目	19日目	20日目	21日目	
／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	／ ()	
朝錠 夕錠	朝錠 夕錠	朝錠 夕錠	朝錠 夕錠	朝錠 夕錠	朝錠 (夕錠)	休 薬						
℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	

○やや少ない △少ない ×食べられない

◎通常 ○やや少ない △少ない ×食べられない

[illegible]

✕モ 医師に伝えたいこと、聞きたいこと、気になること

医療機関名